

コーパスに基づく英語の身近な疑問の解決

—no wonder を例に—

梅 咲 敦 子

要 旨

本稿の目的は、外国語使用における何気ない疑問を大規模汎用コーパスでいかに解決できるかを no wonder を例に論じ、言語現象の要因の特定を通して、究極的には、言語使用メカニズムの解明を実証的に行うことにある。具体的には、it is no NN (名詞) that～と there is no NN (名詞) that～の構文パターンに用いられる名詞の相違とその要因、no wonder の類義語 no surprise との使い分けを質的・量的に分析した。結果、前者の構文パターンと特定の語彙には強い結び付きのあることが分かった。また、no wonder から no surprise への移行が時系列で観察された。この成果の示唆として、人は、実際には経験から蓄積した定型句やパターンを組み合わせで言語を使用していると言えるのではないか。

キーワード：コーパス (corpus)、構文パターン (structural pattern)、no wonder、no surprise、no doubt

I はじめに

英語の使用に際し、非母語話者は様々な疑問に遭遇する。文法構造上は可能でも実際に使われるとは限らない。文法構造上可能でも現実には使用されないのはなぜか。実際の用例から言語使用メカニズムを解明しようとする実証的姿勢も理論言語学とともに重要な科学研究といえよう。本稿では、次に示す no wonder に関する身近な疑問に、大規模汎用コーパスを利用して、一定の解答を見出し、その言語現象がなぜ起こるのかその要因の説明、言語

使用メカニズムの解明を目ざす。

第一の疑問は、it is no wonder that～、there is no doubt that～についてである。あるイギリス英語母語話者に尋ねると、つぎの(1)(2)は容認されるが、(3)(4)は容認されなかった。その母語話者直観と実際の使い分けは一致しているのか。また、もし実際の使用で(3)(4)のパターンが使われないなら、すなわち、名詞によってit is no 名詞(NN) that～、there is no 名詞(NN) that～の構文の使用に明確な差があるなら、具体的にそれぞれの構文をとる名詞にはどのようなものがあるのか。さらに、その差の要因はなにか。

- (1) It is no wonder that he passed the exam.
- (2) There is no doubt that he will pass the exam.
- (3) *There is no wonder that he passed the exam.
- (4) *It is no doubt that he will pass the exam.

第二の疑問は、it is no wonder that～には類語表現としてit is no surprise that～が考えられるが、どのような使い分けがあるのか。また、it is no wonder の no の代わりに little や small が可能と辞書にはあるが、surprise にも当てはまるのか。

本稿では、次の①から④のコーパスを中心に、⑤から⑧を必要に応じて用いて使用状況を調査し、辞書と文法書における扱いを参照しながら、上述の疑問を順に検討する。尚、これらの大規模オンラインコーパスの検索には、①③④⑤は Sketch Engine、①②⑥⑦⑧は corpus.byu.edu の検索エンジンを用いた¹⁾。

- ① BNC (British National Corpus)—イギリス英語を代表。約1億語。
- ② COCA (Corpus of Contemporary American English)—アメリカ英語を代表。2016年12月現在約5.2億語。
- ③ ukWaC (British Web Corpus)—uk ドメインのウェブテキストから取

1) Sketch Engine は Adam Kilgarriff 氏を中心に開発されたオンラインコーパスを搭載した検索エンジン。https://www.sketchengine.co.uk/参照。

集された2016年12月現在約13億語。

- ④ WB (Wordbanks Online)—イギリス英語50%弱以外に、米、豪、カナダ、インド、ニュージーランド、アイルランド、南アフリカの英語。2016年12月現在約5.5億語。
- ⑤ enTenTen13 (English Web)—世界のウェブ上の英語約196億語。
- ⑥ COHA (Corpus of Historical American English)—1810年から2009年までのアメリカ英語約4億語。
- ⑦ GloWbE (Global Web-Based English)—20カ国のウェブ英語約19億語。
- ⑧ TIME (TIME Magazine Corpus)—1923年から2006年刊行のタイム誌約1億語。

II It is no NN that～と There is no NN that～における NN

1. 母語話者直観と頻度—wonder, doubt, surprise

前節で指摘のとおり、wonder は it is no NN that～のパターン、doubt は there is no NN that～をとると英語学習者は習い、逆のパターンは英語母語話者には容認されなかった。では、コーパスにおける頻度が英語母語話者の直観と合致するのか。まず、上述の8つのコーパスに出現する it is no wonder/ doubt/ surprise that～と there is no doubt/ wonder/ surprise that～の頻度を調べた結果を表1に示す²⁾。尚、本稿では現在形を構文の代表として表示するが、検索は be 動詞の変化形すべてを含めて行う。

表1を見ると、wonder と doubt はそれぞれ it is no wonder that～、there is no doubt that～のパターンで出現し、wonder が there is no NN that～、doubt

2) 検索式には以下を用いた。尚、各数値は2016年11月現在。

it [be] no wonder that, it [be] no doubt that, it [be] no surprise that, there [be] no wonder that, there [be] no doubt that, there [be] no surprise that (BNC-BYU, TIME, COCA, COHA, GloWbE)

"It|it" [lemma="be"] "no" "wonder" "that", "It|it" [lemma="be"] "no" "doubt" "that", "It|it" [lemma="be"] "no" "surprise" "that", "There|there" [lemma="be"] "no" "wonder" "that", "There|there" [lemma="be"] "no" "doubt" "that", "There|there" [lemma="be"] "no" "surprise" "that" (BNC-SKE, ukWaC, WB, enTenTen)

表 1 wonder、doubt、surprise の構文とコーパスごとの頻度

コーパス 総語数 \ NN	It [be] no NN that～			There [be] no NN that～		
	wonder	doubt	surprise	wonder	doubt	surprise
BNC-SKE 1 億語	85*	0	47	0	716*	0
BNC-BYU 1 億語	84*	0	47	0	714*	0
TIME 1 億語	73	1	75	0	435	0
COCA 5.2億語	461	5	692	2	1578	14
WB 5.5億語	374	3	663	4	2464	6
ukWaC 13億語	910	9	1545	14	6368	9
COHA 4 億語	473	2	75	16	1588	1
GloWbE 19億語	2207	150	3460	50	10508	79
enTenTen 196億語	25297	1561	36002	602	77232	715

* 同じコーパスを使用しても、検索エンジンによって僅かな差が出ることがある。

が it is no NN that～のパターンと共起することは、イギリス・アメリカ英語の資料が中心の BNC、TIME、COCA、WB、ukWaC では、ゼロまたは60分の1以下である。この頻度差は英語母語話者が容認できないとする結果と合致すると言えよう。さらに、この頻度差が GloWbE と enTenTen という、ピジン・クレオールや世界全体のウェブ英語を対象としたコーパスでも40分の1以下に減少しているとはいえ存在することは、アメリカ・イギリス英語母語話者の直観がそれ以外の英語使用者とは多少ずれがあるかもしれないが、容認されないとする結果は変わらないと考えられる。

さらに、GloWbE でこの英語変種による出現頻度を比較すると、図1の結果が得られた。各サブコーパスの母数が異なるため、高頻度のボックスで数値の背景色を濃く表示している。図から there is no NN that～と wonder の結びついた構文の頻度が高い言語変種は、マレーシアとインドの英語で、it is no NN that～と doubt の結び付きは、バングラデッシュ、マレーシア、香港、ナイジェリア、ガーナの英語で強いことが分かる。

不可とされる構文パターンの例として、COCAに見られる doubt と wonder がそれぞれ it is no NN that～、there is no NN that～と共起した例は、

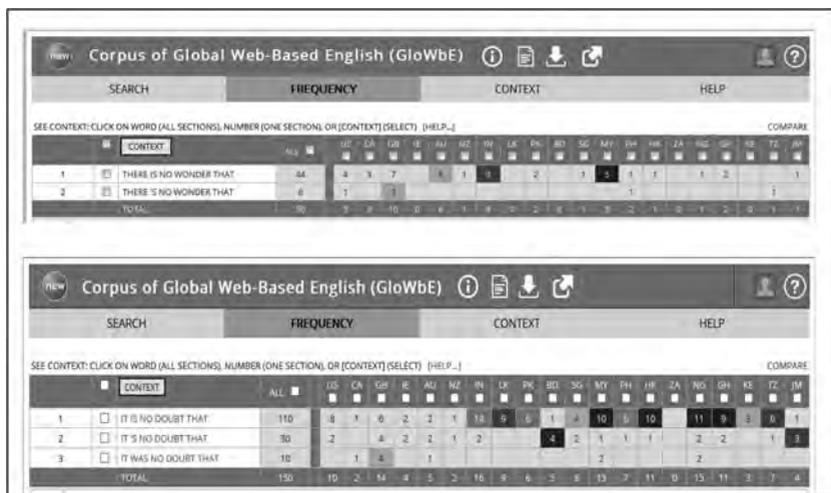


図1 GloWbEにみる英語変種別出現頻度の比較

変種は、US 米、CA 加、GB 英、IE アイルランド、AU 豪、NZ ニュージーランド、IN インド、LK スリランカ、PK パキスタン、BD バングラデッシュ、SG シンガポール、MY マレーシア、PH フィリピン、HK 香港、ZA 南アフリカ、NG ナイジェリア、GH ガーナ、KE ケニア、TZ タンザニア、JM ジャマイカ

次の (5)~(9) の 5 例と (10) (11) の 2 例である (アンダーライン、イタリックは本稿著者)。(5) (6) は実際は当該構文パターンではなく *it is*~*that* の強調構文に *no doubt* が離接詞 (disjunct) として挿入され、断定を避けたと解釈できる。(7)-(9) は文法解釈上は当該構文パターンに該当するが、これらを見る限り、*there is no doubt that* と比較して「疑いのなさ」を述べるというよりは、(5) (6) と同様に離接詞としての機能を果たしていると解釈できる。特に、(7) (8) は一般に言い直しなどを含む文法構造に自由度の高い (loose) 話し言葉の例であり、(8) (9) には *but* が後続している。すなわち、(5) (6) と同様に離接詞として「なるほど~だが」といった軽い気持ちで用いていると解釈できる。

また、(10) (11) は、*wonder* が *there is no NN that*~ と共起した例だが、これらも話し言葉で、自由度のあるなかで使用されている。このパターンは、

it is no wonder よりも強く響くように感じられる。換言すれば、単に that 節の内容が「驚きではなく納得できるものだ」というよりも、もっと強い意味で「全く驚きなどではなく当然だ」という気持ちを示しているのではなからうか。(10) では「彼女は文化に浸透してこれほど長く続いていることに全く驚きなどない」ことを、(11) では「人類がこの状況を心配するようになるのに全く驚くことなどないでしょ (そんなこと当然でしょ)」という強い気持ちがこめられているように思われる。さらに両例とも直後に there is~が続いている。話者の頭の中に特殊な使い方をして強調した余韻が残り、there 構文をさらに続けたとも考えられる。

- (5) I learned that they'd already shipped him to another hospital in the city two weeks before - it was no doubt that hospital that had dropped the guy in our ER. [COCA_FIC_2011]
- (6) But it was no doubt that air of great and secret tragedy that Marlene had really bought into. [COCA_FIC_2007]
- (7) I feel it's no doubt that the great feeling towards the land is because - for the tribe - is because this is their ancestral land here ... [COCA_SPOK_NPR1994]
- (8) Can your economy recover when everyone else seems to be struggling so much? OSTERGAARD# Well, *it's no doubt that* the recovery has been slower than we expected, but everybody who's looking at the Danish economy at the moment says that 2014 was slower than expected, 2015 will be better, and 2016 even better. [COCA_SPOK_CNN2015]
- (9) *It is no doubt that* this revolution will continue, if not intensify, over the next few decades, due in large part to the unrelenting progress in biology and technology that will provide quantifiable access into the psyche, if not soul. But will these advances finally and forever resolve the ages-old debate over whether body and mind are one, or simply varying manifesta-

tions of an indivisible one-ness that is the person? [COCA_ACAD_ *Journal of Academic Culture*2014]

- (10) You know, you look at Lady Gaga and you're like what do about her? You know, on the one hand - but on the other hand - that Wonder Woman looks like that to me, too. She didn't look like that when I started, but now I'm like, oh, she's way more complicated and rich. Like, *there's no wonder that* she kind of permeates the culture and has lasted so long. There's a lot going on there. [COCA_NPR_2015]
- (11) KING Why is wildlife important? Mr. FOWLER: A good question, because, you know, we get sort of swept up in the environmental movement. The environment really means chemical pollution and hospital waste washing up on the shore, and the ozone layer. *There's no wonder that* we humans are getting concerned about that. If there's a hole in our roof, we'll fix it, right? [COCA_CNN_LKL1992]

このように実際の用例を分析すれば、it is no NN that～と doubt、there is no NN that～と wonder の結びついたパターンは特殊な使用と分かる。さらに付記すれば、量的分析には質的分析も欠かせないと言えよう。

2. 名詞の種類

2.1 量的分析

では、it is no NN that～と there is no NN that～の NN にはどのような名詞が用いられるのか。大規模コーパス BNC、COCA、WB、ukWaC を用いて、it is no NN that～と there is no NN that～構文に見られる NN を抽出し、それぞれの構文について表 2 と表 3 の結果を得た³⁾。

3) 検索式には以下を用いた。尚、各数値は2016年11月現在。

"It|it" [lemma="be"] "no" [tag="NN"] "that" (WB, ukWaC)

"There|there" [lemma="be"] "no" [tag="NN"] "that" (WB, ukWaC)

"it|It" [lemma="be"] "no" [tag="NN0|NN1"] "that" (SKE_BNC)

表2 It is no NN that

	WB(550M)	1795	BNC(100M)	328	COCA(520M)	2360	ukWaC(1.3bil.)	(3772)
1	surprise	667	wonder	85	surprise	691*	surprise	1545
2	coincidence	429	accident	73	wonder	461	wonder***	910
3	wonder	374	coincidence	62	coincidence**	387	coincidence	738
4	accident	251	surprise	47	secret	384	accident	438
5	fluke	8	secret	44	accident	361	mistake	16
6	machine	6	defence	7	mistake	8	mystery	12
7	guarantee	5	answer	1	question	8	guarantee	10
8	secret	5	cliché	1	shock	7	news	10
9	consolation	4	consolation	1	doubt	5	doubt	9
10	shock	4	evidence	1	mystery	5	defence	8
	doubt	3	Excuse	1	consolation	4	shock	7

* 表1との数値の差は、本検索がタグ検索によるため、タグ付与の誤りによると考えられる。

** co-incidence を含む *** wonder は表3の検索により追加⁴⁾。

表2に示す it is no NN that～のパターンにはまる名詞として、surprise、wonder、coincidence、accident は WB、BNC、COCA、ukWaC のすべてに共通して高頻度で出現している。また、secret はイギリス英語とアメリカ英語を代表すると考えられている BNC と COCA で高頻度に見られる。他方、高頻度に出現する名詞とそうでない名詞には、頻度数に1ケタ以上の差があることが分かる。

表3に示す there is no NN that～のパターンにはまる名詞として、4つのコーパスすべての5位までに、doubt、question、evidence、guarantee、way

"there|There" [lemma="be"] "no" [tag="NN0|NN1"] "that" (SKE_BNC)

it [be] no [nn*] that (COCA)

there [be] no [nn*] that から名詞複数形の例を削除 (COCA)

尚、数値はその形式として抽出されたもの全てを含んでいる。従って that が関係代名詞として使用される例も含まれている場合がある。

- 4) ukWaC に註3の検索式で検索した場合、wonder が7例しか検出されなかった。しかし、"It|it" [lemma="be"] "no" "wonder" "that" で検索すると表1に示す通り910例が出現した。表上部の総出現数3772回は2869+910-7の計算による数値。タグ付けに問題 (NN となるべきところ VVP) のあることが、次の例から分かる。It's no /RB wonder /VVP that only 14 seconds of filming made it into 'the can' every day.

表3 There is no NN that~における NN

	WB(550M)	6899	BNC(100M)	1636	COCA(520M)	7539	ukWaC(1.3bil.)	15325
1	doubt	2464	doubt	716	question	1980	doubt	6368
2	evidence	991	evidence	296	doubt	1577	evidence	2724
3	question	831	way	114	evidence	1009	guarantee	1214
4	way	456	guarantee	105	way	657	way	915
5	guarantee	419	question	66	guarantee	412	question	780
6	indication	296	suggestion	51	indication	290	indication	430
7	sign	200	indication	47	proof	132	suggestion	361
8	suggestion	159	sign	28	reason	109	proof	161
9	proof	106	proof	18	sign	100	requirement	159
10	chance	66	requirement	17	chance	73	sign	155
11	reason	60	certainty	12	law	53	reason	116
12	certainty	50	chance	12	requirement	53	certainty	105
13	law	43	dispute	9	assurance	52	dispute	105
14	assurance	33	doubting	9	sense	46	chance	102
15	possibility	31	law	8	record	32	expectation	59
16	hint	24	possibility	8	suggestion	32	record	59
17	requirement	24	reason	8	rule	29	possibility	58
18	dispute	23	record	6	certainty	28	rule	55
19	rule	23	presumption	5	dispute	24	danger	40
20	sense	19	danger	4	possibility	23	law	39
			hint	4				

が見られる。また2桁以上の出現頻度をもつ様々な名詞が、表2に比べて表3には多く見られる。

2.2 質的分析

各上位に出現した語の用例を見てみよう。まず、it is no NN that~における名詞を扱う。(12)(13)と(14)(15)はそれぞれ、that節の内容が、(12)(13)では驚くべきことではない、(14)(15)ではたまたまそうだったというのではないことを示している。微妙な相違を考えると、(12)は、少しでも危険があれば、最も安全策を医師が採用しても不思議はない、すなわち、

同じ驚きでもその内容が道理にかなっていることを示し、(13) はびっくりするようなことではない、すなわち、世間一般によくあることだと伝えている。(14) は当人が意識せずに、何も考えずになされたことではない、(15) は偶然ではなく必然的なものであることを示していると言えよう。さらに(16) は that 節の内容が周知の事実であることを表わしている。

- (12) With the threat of law suits hanging over hospitals, *it is no wonder that* doctors choose the safest course of action if there is the slightest risk. [WB_NBA--020801]
- (13) This approach provides only a limited view of what happens in markets. *It is no surprise that* there are interrelations among the many markets in our economy. [WB_BUAtm958022]
- (14) OSLO - The leader of Norway's minority Labour government, Gro Harlem Brundtland, is not entirely without a sense of humour. *It is no accident that* she chose Friday the 13th to resign, writes Tony Samstag. [BNC_A57_Independent1989]
- (15) *It is no coincidence that* the world's poorest countries are also home to the most horrendous conflicts and displacement of peoples. [ukWaC_org.uk]
- (16) *It's no secret that* Earth is a watery planet. [COCA_MAG2014]

次に、there is no NN that~の5位までの名詞の例を(17)-(21)に示す。このパターンは基本的に that 節の内容についての名詞の持つ意味、すなわち、疑い、疑問の余地、証拠、補償、術(方法)などが存在しないことを表わす。従って、(17)は「彼女の心理状態が普通ではなかったことは疑いの余地はない」、(18)は「裕福な人と貧しい人之间には健康上の不平等があり、貧困は不健康の原因であるということに疑問の余地はない」(19)は「しかし、結果として健康が意見にさらされているという証拠はない」(20)は

「生産されたものが売れるという保証はない」(21)は「誰かが来て、物理的に彼に告げなければ、彼がそれを知り得る術はない」というように、抽象的概念についてその存在の有無を述べるパターンといえる。

- (17) *There is no doubt that* her mind was unusual. [WB_BU-Lm931184]
 (18) *There is no question that* inequalities in health between rich and poor do exist and that poverty causes ill-health. [BNC_G08]
 (19) Some people exceed this daily intake from food and beverages alone, but *there is no evidence that* their health is at risk as a result. [ukWaC_1013_gov.]
 (20) In an economic system coordinated solely by markets *there is no guarantee that* what is produced can be sold. [BNC_HH2]
 (21) *There is no way that* he could have known it unless somebody came and physically told him. [COCA_SPOK_CBS2003]

そのため、that節で内容を示すことのできる抽象的概念を表わす名詞であれば、基本的には *there is no NN that*~の NN になり得る可能性がある。表3に掲載されている他の名詞の例として(22)は「…彼らが未だに生存している可能性はない」、(23)の「教員がテストを受けているグループの生徒のみに注意を向ける必要性はない」をみても、可能性や必要性といった抽象的概念の有無について言及していることが分かる。さらに、抽象的概念には(24)の「航空会社は遅延の際に乗客をもっと快適に過ごさせなければならぬというきまりはない」のように、きまり、規定といったかなり具体的な場合もある。しかし、同じlawでも表3には当該検索方法で得られた頻度をそのまま掲載しているので(25)のようにthatが接続詞ではなく関係代名詞の場合も含まれている。

- (22) The Navy says *there is no chance that* they are still alive. [COCA_

SPOK_CNN2000]

- (23) It is understood that the Tests can be done as worksheets by a group whilst the teacher is working with other children in the class. *There is no requirement that* the teacher devotes her attention solely to the group being tested. [BNC_GXL_personal letters]
- (24) Keep in mind that *there is no law that* an airline has to make your life more comfortable during the delay, nor is an airline responsible for your expenses while you wait. [COCA_MAG_Redbook2004]
- (25) ... there is no law that says you have to answer a question just because someone asks it. [COCA_MAG_USAToday2011]

2.3 構文と名詞の関係

以上の結果をまとめると、第一に、wonder と doubt はそれぞれ it is no NN that～と there is no doubt that～構文と共起し、この2つの名詞が逆のパターンをとることは稀である。第二に、it is no NN that～と there is no NN that～のパターンをとる名詞には相違が見られた。第三に、it is no NN that～では、このパターンと共起する名詞 (NN) の頻度には、各コーパス上位4～5番目までの語とそれ以下の語の間に極端な差が認められ、NNの出現頻度の大半を wonder, surprise, coincidence, accident と secret が占めた。他方、there is no NN that～では、doubt, question, evience, guarantee, way のみならず reason, rule, record など様々な名詞が使用されていた。

これらの結果を先行研究と結び付けて検討してみよう。パターンと意味から、名詞とその可能な構文を分類した先行研究はほとんど見当たらず、次の2つのみを取り上げる。Sinclair et al. (1998) では、名詞を文法パターン (grammar pattern) と意味から網羅的に分類している。同書 (1998: 248-250) の分類に、“it v-link det N that” というパターンがあり、そのなかを 1. THE ‘PITY’ GROUP, 2. The ‘MIRACLE’ GROUP, 3. THE ‘FALLACY’ GROUP, 4. NOUNS WITH OTHER MEANINGS に分けている。(26) の例を含む wonder,

surprise, coincidence, accident, secret はこのうち 4 に分類されている。この分類には他に certainty (0), cliché (0), consolation (4), irony (0), joke (2), mystery (5), paradox (0), possibility (0), reality (0), revelation (3), rule (0) も含まれている。しかし、各語の () 内に COCA での it [be] no NN that を検索した頻度を加えてみると、“it v-link det N that” のパターンで決定詞 (det: determiner) が no となる NN は限られていることが分かる。

- (26) Plants and flowers are Sue's true love, so it's no wonder that they predominate in her home. [Sinclair et al. 1998: 250]

八木 (1999: 182-212) は叙述名詞の意味と構文パターンとの関係を明示している。同書 (1998: 204-205) では、“it is N that” (N は同書の例では a/an+N) をパターンとして設定し、その N に入る名詞は客観的心的態度 <ATTITUDE> <OBJECTIVE> 示す叙述名詞という分類に属する。その下位区分として、that 節に be going to や will を伴わない場合は事実 <FACTIVE> を、伴う場合は前望的 <PROSPECTIVE> を設定している⁵⁾ 名詞の例として <FACTIVE> の区分 (別名 *shame-type*) には、crime (0,0,1), fact (0,0,0), luck (0,0,0), marvel (0,1,0), miracle (0,0,1), mistake (8,16,3), outrage (0,0,0), paradox (0,1,0), pity (0,0,0), scandal (0,0,0), shame (0,1,1), sin (0,0,1), stupidity (0,0,0), wonder (461,910,374) が含まれ、<PROSPECTIVE> の分類 (別名 *cinch-type*) には、cinch (1,0,0), (only) dream (0,0,0), guess (0,0,0), idea (0,0,0), illusion (0,0,0), no surprise⁶⁾ (691,1545,667) が挙げられている。各語に続けて () 内に COCA, ukWaC, WB の順に、各コーパスでのパターン it is no NN that における出現頻度を示したが⁵⁾、wonder と surprise 以外は殆ど使用されていないことが分かる。

5) 梅咲 (2001: 10-18) でその分類に若干の修正を提案したが、当該パターンは含まれていない。

6) 八木 (1999: 191) に surprise のみ no 付きで掲載されている。

他方、there is no NN that～については、八木（前掲書）では NN が叙述名詞ではないため対象外である。Sinclair et al.（前掲書）でもこのパターンは分類項目として設定されておらず、doubt は “N that～” という分類項目に含まれている。さらにこの分類項目には 6 つの意味による下位分類が設定され、多くの名詞が含まれている（Sinclair et al. 1998: 108-113）。

これらの先行研究のパターン分類では、it is no NN that～と高頻度に共起する NN を十分には説明できないが、このパターンをとる名詞が「客観的心的態度」を表わす叙述名詞に属すると言うことはできよう。さらに、高頻度に共起する名詞とそれ以外の名詞の頻度差が大きいことから、it is no wonder/ surprise/ coincidence/ accident/ secret that～はいわゆる決まり文句、定型表現と考えることができよう。

同様に、先行研究からは there is no NN that～をとる NN への明確な示唆は得られないが、このパターンは同格の that 節をとる名詞の性質の有無を伝える表現と言える。さらに、コーパス検索で得られた名詞（表 3 参照）から、that 節に示す内容についての疑い（疑問の余地）、証拠、保証、術（方法）や根拠、規則、記録など客観性（一般性）と抽象度の高い名詞が NN に入ることが多いと説明できよう。

III It is no wonder/ surprise that～

II の表 1 に示した通り、surprise は wonder と同様に it is no NN that～のパターンで高頻度に用いられ、there is no NN that～のパターンで用いられる頻度は it is no NN that～に比べて非常に少ない。では、it is no wonder that～と it is no surprise that～にはどのような使い分けがあるのか。

1. 意味的相違

(27)-(32) の例を比較すると、基本的に it is no wonder that～は、「～は根拠のないことではない、納得できることだ、不思議ではない」ことを示しているのに対し、it is no surprise that～は、「～はびっくりすることではな

い、驚くことではない、～も当然だ」という気持ちが強いと言えよう。(27)-(29)の *no wonder* の例では、先行する文脈や *that* 節の内容が常識に近いことであるのに対し、(30)-(32)の *no surprise* では、どちらかといえば異常な状態である。(27)では、若者が他の場所で仕事を探そうと谷を去って行くのも納得できることだった。(28)では、男性が何も言わないと女性はその男性が自分と話したくないと結論付けてしまう。なぜ男性が話をしていないのかについて誤った思いこみがあるので、女性が男性にいらいらするのもうなずける、(29)では、見過すのも無理からぬことだと述べている。他方、*that* 節の内容が、(30)では君の最愛の友が馬であること、(31)では我々が混乱していること、(32)ではプーチン氏がロシア大統領代行職初日に軍隊と過ごしたことで、普通ではない状態を取り上げている。

- (27) A sister earning a few pence for her hard work cleaning and washing clothes, scrubbing floors and doing whatever a richer family required, would have her pence taken into account when assessing the relief money paid to her brother. *It was no wonder that* young people left the valley to seek work elsewhere. [WB_BB-Ym921077]
- (28) When he has nothing to say, she concludes he doesn't want to have a conversation with her. With all of these incorrect beliefs about why a man is not talking, *it is no wonder that* women are frustrated with men. [WB_BB-Wm022258]
- (29) The Victory had become what Ernie did without doing it. There was a center to all this activity; it was a still center. *It's no wonder that* we overlooked it. We overlooked it because there was nothing to see. It was the nothing that made it mystical. Whether Ernie saw it this way is another question. [WB_BU-Fm951451]
- (30) WHEN you are an 11-year-old monk, your father is in jail for making drugs and your mother has abandoned you, *it is no surprise that* your best

friend is a horse. [WB_NB1-020505]

- (31) Companies' schemes are now the playthings of itinerant finance directors, whose own extravagant pension demands are met by special arrangements. *<p/>* When all the crucial decisions are taken by people who are unaffected by them, *it is no surprise that* we are in a mess. If ever there was a case for going back to basics, this is it. *<p/>* Forget pensions. In essence, we all need to build up a pot of capital that can keep us when we are no longer earning. [WB_NB1-020315]

- (32) Today, though, they have something different -- a new leader, Vladimir Putin. He was installed as acting president yesterday after Boris Yeltsin's surprise resignation. An unknown just a few months ago, Putin gained widespread popularity for his crackdown on Chechnya. So as NPR's Michele Kelemen reports, *it was no surprise that* he spent his first day as acting president with the troops. [COCA_SPOK: NPR_ATCW, 2000]

2. 年代別変遷

COHA を使用して1810年代から2000年代までの頻度を *it [be] no wonder | surprise that* の検索式で調べた。図2に示すとおり、*it is no surprise that* ~のパターンは1950年代以降にしか使用されていないことが分かる。さらに、1990年代、2000年代になると、*it is no wonder that* ~より *it is no surprise that* ~のほうが高頻度で使用されている。

CONTEXT	ALL	1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000				
IT IS NO WONDER THAT	299		10	9	8	17	26	16	24	24	20	26	20	15	12	9	16	9	20	12	6				
IT WAS NO WONDER THAT	130		2	1	6	11	8	9	10	12	5	13	17	6	6	8	8		2	1	3				
IT 'S NO WONDER THAT	44			1	1					1		1	1	2		1	4	1	2	16	13				
IT 'S NO SURPRISE THAT	38																		1	1	16	20			
IT IS NO SURPRISE THAT	28																				3	4	6	9	6
IT WAS NO SURPRISE THAT	9															1						1	3		4
TOTAL	548		0	13	11	14	28	34	25	34	37	25	40	38	25	18	19	31	16	34	54	52			

図2 COHA に見る *it is no wonder/surprise* の年代別頻度

さらに、(33) は本検索で得られた最も年代の古い例だが、*TIME* 誌で使用されている。また、COHA における *TIME* 誌からの例は、it is no wonder that～が総数473例中7例に対し、it is no surprise that～が総数75例中10例と多い。*TIME* 誌がこの言語変化の引き金となっていると考えることもできる。さらに *TIME* 誌のテキストのみを多く収集している TIME Magazine Corpus (本稿 I の⑧参照) を検索すると、1932年に (34) の例が使用されていた⁷⁾。

- (33) Niemller’s mission to Moscow was clothed in strictly clerical garb. He simply wanted, he said, to confer with leaders of Russia’s Orthodox Church” on matters of relations with Christians in Russia.”

But Pastor Niemller had already said enough to give the trip sharp political significance. For nearly three years, he has been speaking contemptuously of West Germany’s Bonn government (“It was conceived in the Vatican and born in Washington”) and using platform and pulpit to oppose West German rearmament and integration with the West. *It was no surprise that* the Kremlin had seen fit to invite him to Russia-the first top figure in West Germany so honored since war’s end. [COHA_Time Magazine: 1952/01/14]

- (34) Consolidation Coal Co. is the Rockefeller coal company. Pittsburgh Coal Co. is the Mellon company. Pittsburgh produces more bituminous coal than Consolidation but its reserves of a billion tons are only half of Consolidation’s. Last year Pittsburgh earned a little more than half of its fixed charges, Consolidation earned two thirds. Last week *it was no surprise that* 72-year-old Consolidation should go into receivership. Operating an “open shop,” Consolidation has had little labor trouble but

7) Early English Books Online という 1473～1820年の間に刊行された書物のテキストを収集したコーパスを Sketch Engine で検索した結果、it is no wonder that～のパターンが1012例に対し it is no surprise that～は一例もないことも本主張をサポートする。また OED² (1989) CD-ROM 版の用例検索でもこの初出は1957年である。

all other coal woes have been its woes. The receivership was precipitated by failure to pay interest on an \$18,927,000 bond issue. [TIME_Troubles_1932/06/13]

尚、(33) と (34) の例でも、that 節の内容は一般的に考えられる常識から外れた、いわば異常な状態であることは、III の 1 の主張と合致する。

3. little/small wonder, little/small surprise

OALD⁹ (2015), LDOCE⁶ (2014), MED² (2012), COB⁸ (2014), CALD⁴ (2013) のすべてに it is little/small wonder that～に関する記載があるが、surprise の項目では little や small には言及がない。

本研究では WB, BNC, COCA, ukWaC における出現頻度を調べた⁸⁾。表 4 はその結果だが、it is little surprise that～のパターンは it is little wonder that～に比べ頻度は少ないが⁹⁾、用いられている。他方、it is small surprise that～のパターンは 4 つのコーパスで 1 例しか見られず、一般的に用いられている表現とは言い難い。

表 4 it is little/small wonder/surprise that～の出現頻度

it be -- that	WB(550M)	BNC-SKE(100M)	COCA(520M)	ukWaC(1.3bil.)
little wonder	175	32	131	405
small wonder	45	23	23	75
little surprise	31	2	12	74
small surprise	0	0	1	0

(35)-(39) の用例をみると、wonder とくらべ surprise のパターンのほう

8) 検索式には以下を用いた。尚、各数値は2016年12月現在。

"it|It" [lemma="be"] "little" "wonder" "that", "it|It" [lemma="be"] "small" "wonder" "that", "it|It" [lemma="be"] "little" "surprise" "that", "it|It" [lemma="be"] "small" "surprise" "that" (以上 WB, BNC-SKE, ukWaC)、it [be] little wonder that, it [be] small wonder that, it [be] little surprise that, it [be] small surprise that (以上 COCA)

が that 節の内容自体が驚異と考えられる。この点で、III の 1 の主張と合致する。さらに、surprise のパターンが用いられている (38) (39) は文脈から内容自体も驚異と捉えられる。

- (35) Commander McGuinness' closing statements written in 1945 are quoted as follows:

The same keenness prevailed on board. Our American Allies were all out to see this job through and were full of stories of the RAF on the first trip which was so successful and were even more sure that the second run would be better. They also had previous experience, so we hoped all would go well for the second run.

The carrier sailed again to schedule on May 1, 1942 - a really magnificent performance. *It was little wonder that* our Prime Minister, Mr Churchill, made the remark in the House of Commons 'Who said a wasp cannot sting twice?'

This was the Wasp' that stung twice when 99 Spitfires were delivered to Malta in so short a period. This was the turn of the tide for Malta - a turn of the tide in the Mediterranean - a turn of the tide for North Africa - and we all know what followed.' [BNC_CGJ_1991]

- (36) The question of how many psychosomatic cases the average family doctor sees is an interesting one. One survey concluded that a full third of patients have some psychological element in their illness, with 18 per cent showing purely psychiatric or psychosomatic symptoms. Other studies put the figure even higher, some as high as 50 per cent. Such studies have received a lot of publicity, so *it is small wonder that* the average family doctor suspects a psychological cause rather than a physical one, especially where patients complain of multiple symptoms. [BNC_BM1_1989]
- (37) Diesel engines also produce nitrous oxides (NOx), which return from

the skies as acid rain. *It is small wonder that* the truck and bus manufacturers based in areas hit worst by acid rain, Volvo and Scania in Sweden and MAN in Bavaria, are working hardest to cut pollutants. [BNC_A92_1989]

- (38) The struggle for survival ensured, in Primo Levi's phrase, that the 'worst lived, the best all died'. *It is little surprise that* so many survivors of the camps, like Levi and Jean Amery, still committed suicide 40 years after their liberation, so riddled with guilt did the camps make them and so painful were their experiences. [ukWaC_1049942_pubs.socialistreviewindex.org.uk]

- (39) Next door, at the Hall of Fame building, a more reverential tone prevails, and the displays are more refined, though the array of items is just as wide. Irwin's tribute to mountain heroes, famous and unknown, includes a fiddle Roy Acuff played at the Grand Ole Opry, a Stetson worn by bluegrass grandfather Bill Monroe (size 7 1/4, Irwin notes, in case anyone wondered) and World War II hero Sgt. Alvin C. York's leather jacket.

But there's also plenty of just plain odd stuff, such as a glass eye worn for nearly 70 years by a Paris, Tenn., fellow named Gol Cooper. Beside the fake blue orb is the now-rusty pocket knife Cooper poked his real eye out with in a freak accident while tying his shoe.

With Irwin's obvious zeal to tell the story of His People, *it's small surprise that* he was attracted to the evangelical roadside markers that stand near the Display Barn.

From 1940 to 1964, the late Harrison Mayes, a Kentucky coal miner, made 300 of these tall concrete, heart-shaped signs, to spread the gospel along America's byways. While some of the messages are mundane -- "Prepare to Meet God," "Jesus Is Coming Soon" -- Mayes' ambitions were anything but. [COCA_NEWS_Christmas plain and simple_2000]

IV おわりに

大規模汎用コーパスを利用した結果、no wonder に関する第一の疑問、it is no wonder that～と there is no doubt that～について、その頻度と *it is no doubt that～と *there is no wonder that～の頻度には大きな差が見られ、母語話者直観と実際の使用は一致する結果が得られた。さらに、it is no NN that～と there is no NN that～の構文で使用される NN は、前者ではその大半が surprise, wonder, coincidence, accident と secret であったのに対し、後者では doubt, question, evidence, guarantee, way が上位に出現していたが、前者と比べ2桁以上の頻度で出現する名詞が多く見られた。前者のパターンに出現する名詞は八木（1999）の叙述名詞の分類を当てはめると、「客観的心的態度」を表わす名詞に分類できるが、その分類に入る名詞すべてがこのパターンで使用されているわけではないことから、it is no wonder/ surprise/ coincidence/ accident/ secret はいわゆる決まり文句、定型表現と呼べるのではないか。他方、there is no NN that～は、NNの有無を意味する表現であり、that節に示す内容についての疑い（疑問の余地）、証拠、保証、術（方法）や根拠、規則、記録など客観性（一般性）と抽象度の高い名詞が NNに入ることが多いと言える。

第二の疑問、it is no wonder that～と it is no surprise that～の使い分けについては、前者より後者の方が that節の内容に異常性が高く、前者の表現は「～は根拠の無いことではない」を、後者は「～は驚くことではない」というように、後者の方が驚異が強いことを示した。また、後者は1950年前後から使用され始めた可能性が高く、コーパスで見える限り TIME 誌の影響が示唆できた。さらに、noの代わりに little と small の使用を調べた結果、it is little surprise that～の使用はあるものの、it is small surprise that～の使用は4つの大規模コーパスに1例しか見られず、普通に使用されている表現ではないことが分かった。用例から、it is little/ small surprise that～では、that節の内容や文脈が wonder の場合より驚異が強いことも分かった。

本研究では、no wonder を例に、it is no wonder that～と there is no doubt that～との比較、wonder と doubt の位置にくる名詞、it is no surprise that～との相違について、大規模汎用コーパスを検索することで、英語非母語話者の疑問を実証的に解決することができ、時代による英語表現の変遷や世界の英語の相違も知ることができることを示した。

尚、離接詞としての用法は稿を改める。また、今回の検索では、it is no NN that～、there is no NN that～の構文で that の省略された例や、be 動詞と no の間に probably や certainly などの副詞の入る例は抽出していない。ひとつには、一定頻度に頼る場合、検索をできる限り自動化したいためであり、またひとつには、単純に可視化したいためであった。ただ、これらも調査すれば、更なる定型表現やその他のパターンが得られるかもしれない。

(筆者は関西学院大学商学部教授)

参考文献

- Davies, M. (n.d.) <http://corpus.byu.edu/faq.asp>
 Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman.
 Sinclair, J., G. Francis, S. Hunston, E. Manning, and T. Lane (eds.) (1998) *Collins COBUILD Grammar Patterns 2: Nouns and adjectives*. London: HarperCollins.
 梅咲敦子 (2001) 「類義語の用法にみる語の本質的意味の相違—fault, mistake, responsibility を例に」『帝塚山大学短期大学部紀要』38, 10-18.
 八木克正 (1999) 『英語の文法と語法—意味からのアプローチ—』研究社出版。

参照辞書

- CALD⁴ (2013): *Cambridge Advanced Learner's Dictionary* 4th ed.
 COB⁸ (2014): *Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary* 8th ed.
 LDOCE⁶ (2014): *Longman Dictionary of Contemporary English for Advanced Learners* 6th ed.
 MED² (2012): *Macmillan English Dictionary for Advanced Learners* 2nd ed.
 OALD⁹ (2015): *Oxford Advanced Learner's Dictionary* 9th ed.
 OED² (1989): *Oxford English Dictionary on CD-ROM*.